

講演会「横浜のニューカマーと子どもたち」

1月28日(水)、(財)横浜国際交流協会(YOKE)の前田正子理事長による「講演会」を開催しました。「横浜のニューカマーと子どもたち」の講演趣旨は、この10年間で外国人が1.5倍に増加した理由とそれに伴う問題、特に学齢期の外国人子弟が陥っている現状が主な内容でした。

90年度の入国管理法の改正で日系移民の就労・入国が緩和され、両親とともに日本に来た子ども達も公立の学校に入学しました。それに伴い、日常会話は習得しても学習言語で躓き、学校生活になじめない子どもたちが多くでてきている問題が発生しました。教育現場の受け入れ体制も整ってはず、双方が混乱に陥っているのが今の状況だそうです。そういう中で、YOKEがどんな形で支援しているかの実例を紹介していただきました。当ラウンジも、取り組まなければならない大きな課題のひとつとして捉えています。学期末を迎える時期になると学校からの通訳派遣依頼が多くきます。学校の仕組み、学習に関する専門的な知識の習得を心がけ、現状に対応できるよう、研鑽を積まなければならないと講演を通じ感じることができました。



～日本語教師養成講座～

ラウンジの人材育成事業である日本語教師養成講座が2008年9月～2009年3月の期間で実施されました。講師は東京ランゲージセンターの岩垣文明校長はじめベテラン講師4名で、受講生30名が全員講座を修了することができました。修了式では篠原学爾さんから受講生を代表して次のような挨拶をいただきました。

第一回目の講座の折であったと記憶しております。岩垣先生が、我々受講者の顔ぶれに触れて、ご自身の経験においてかってないほど女性の割合の高い集まりであることに言及されました。かくして当教室で少数派でありますこの私が、実は世代についても多数派に属するわけではないことは、着席して周りをながめてみれば明らかでした。

受講上の諸注意について説明する武田代表の声に耳を傾けつつも、私は勝手な想像をめぐらせておりました。つまり私を含む参加者の大半が自分の操る日本語にはあまり欠けるところはないと密かに自負しているものであろう、などと。そんな私でしたが、いざ講義が始まってみると、日本語文法そのものについてはもとより、日本語の来し方行く末について、そして現在の社会における日本語の状況などについて、いかに知らないことが多いかを十二分に思い知らされることになりました。

もっとも先生方の話に耳を傾けつつ、一つうなずくたびに、日本語の世界の深奥へと歩を進めているような気がしたのは私だけではなかったはずでした。それが単なる気だけの話に過ぎなかったことは、帰宅したのち家族に講義内容を説明しようとする段になって、おのずと明らかになってしまったものですが。

さて岩垣先生をはじめ講師の先生方から我々受講生が受けた学恩は、決して講義を通じてのみにとどまるものではなかったように思われます。講義修了後、思い思いのあまりにも素朴な質問を携えて詰め掛ける我々に対して、先生方が示された親身な態度は、一人ひとりの胸のうちに、ある種のぬくもりを生じさせる記憶として残ってはいないでしょうか。

今後、我々一人ひとりが、日本語を伝え広めることを通して、日本と諸外国との交流にわずかなりとも役立つことを切に願いますし、またその実現が関係各位への何よりの恩返しとなるものと信じます。(篠原学爾)

今後のイベントのご案内

○国際交流会「ミニ運動会で楽しもう」

日時：平成21年3月29日(日)

場所：富岡総合公園アスレチック広場

会費：200円(高校生以上)

開館時間のご案内

火・木・金・土・日曜：9:00～17:00

水曜日：9:00～21:00

休館日：月曜日・祝日 年末年始 市大行事日



～横浜市金沢区の公的国際交流のスペース～

Kanazawa International Lounge

金沢国際交流ラウンジニュース No.6



金沢国際交流ラウンジボランティア会 広報部発行 2009.3.20
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学 シーガルセンター2F
TEL 045-786-0531 FAX 045-786-0532
URL: <http://www.kanazawalounge.org>
E-mail: klounge@shore.ocn.ne.jp

2008年度の活動をふり返って

代表 武田 美智子

最近、国際関係の「講演会」参加に嵌っています。「国際とは？」と投げかけ、その真の意味を考えさせてくださったのは市大の布施学長の講演でした。「国際交流ラウンジ」と簡単に「国際」を使っていたが、本当の認識はしていなかったと感じました。国とは・国家とは・国際とはという言葉の基本原理の解析から現在に至る国際社会の変化について、本当に概念でしか理解していなかった世界が講演を通して見えてきたように感じました。

昨年末から、「小山内美江子・カンボジアに学校を作る会」・「池上彰・ジャーナリスト」・「ヨーク理事、前田正子」・「松沢県知事」・「布施学長」の講演会に参加し、外国との関係、歴史、世界情勢の問題について知り、今、何を把握して活動をしていかなければならないかを少しですが理解できました。

講演会参加に私自身を駆り立てたものは、日本語教室や交流会での外国人との出会いを通じてよその国のことをもっと知りたいという興味と、ラウンジを運営するには何が必要かを学びたいという思いでした。

私は、ラウンジに来て下さる外国人の方々、学内の留学生に感謝しています。外国人を支援するという「与える側」の立場としてだけでなく、異文化のことをもっと知りたいという刺激・もっと学んでいきたいという意欲を引きだしていただき、多くのものを「与えられた」という思いでいっぱいです。

日本語言語の複雑さ面白さに引きずられたのも日本語を拙いながらも教えるという活動や、事業の「日本語教師養成講座」の企画・受講を通してです。

ラウンジ会員の皆様も同じ思いで取り組んでいることと思います。ラウンジが発足してからまだ2年に満たないですが、会員の方々のさらなる活動の充実とラウンジの発展を願って取り組んでいきたいと思っています。

市大・行政・他ラウンジ関係者のご支援を感謝しております。



5月 外国人親子の会



6月 交流会



9月 交流会：BBQパーティー



10月 パネルディスカッション



12月 交流会



3月 日本語教師養成講座

こくさいこうりゅうぶ 国際交流部

今年は区制60周年ということや、横浜でアフリカ会議が開かれたことに因んで、6月の交流会では、フィンランドとベナン（アフリカのガーナの隣にある）の方に、故郷の話をいただきました。どちらも興味深い話でした。12月の交流会では、「横浜パレット（フォークダンスを踊るボランティアグループ）の方々」にいろいろな国のダンスを見せていただき、その後参加者も加わって2曲ダンスを踊って楽しみました。参加したメキシコの方が、「故郷の衣装とダンスを見て、涙が出るほど嬉しかった」と話された由。主催した私たちも嬉しく思いました。少しずつ参加者もリピーターも増えてきて、どんな交流会がよいか、部員一同益々知恵を絞らなければいけないと思う今日この頃です。

にほんごぶ 日本語部

前年度のベテラン役員から新米役員にバトンが渡され、早一年。本人たちも周りの方々も不安いっぱい船出でしたが、新しい教室（土曜日教室）の増設もふくめ当初目標をなんとかクリアしたと思っています。5月に開講した土曜日教室はボランティア5名学習者1名の出発でしたが、その後学習者も順調に増え最近では学習者が20数名、ボランティアが11名という大きな教室になっています。一方、今年の年明けからの傾向として、日系外国人の学習者が急増しています。世の中の不況、いわゆる派遣切りのあおりをうけた外国人が次の仕事を探すためには日本語能力の向上が必要であると感じていることがその一因であると思われます。われわれ日本語部員としても、できるだけ多くの学習者を受け入れるべく努めておりますが実際に受け入れられる人数はボランティア数やスペースの問題があつておのずから限られてしまいます。実際に現在開講している各教室の学習者数は受け入れの限界に来ているといわざるを得ません。この状況下すこしでも多くの学習者を受け入れるため、来年度からはさらに教室を増設し、4教室体制にする予定です。（日、火、木、土）また、4月からは日本語教師養成講座の修了生30名が活動に参加していただけることになっております。今後とも、日本語で苦勞している外国人の方々に日本での生活がより快適なものとなるように微力をつくしていくつもりですので、皆様のあたたかいご支援よろしくお願いいたします。

じょうほうぶ 情報部

情報部の活動は、通訳や翻訳を通して地域の外国籍の人たちの支援をすることです。ラウンジ活動の中では、イベント時の通訳やラウンジニュースやホームページの翻訳といった活動もしています。そのほかに子育てサポートセンター「トコトコ」の利用案内や河合玉堂の説明文の翻訳、区内の地名表記などの手伝いをし、情報部員としてもたいへん勉強になりました。今年度の大きな活動は7月に開催した講演会と、年間を通じて行った「外国人親子の会」でした。講演会のテーマは、「消費者トラブルとその対処法」でした。日本に住む外国籍の方たちへのアドバイスの一助になればと企画しましたが、日本人の私たちがまず、気をつけなければと感じることが多く非常に参考になりました。「外国人親子の会」は当初の交流の場から情報提供の場へ形はかわりましたが、参加者が一般の外国人の方にも広がり、生活に必要な情報—救急法や交通安全についてなどを多くの外国籍の方に知ってもらえたと思います。本年度で「親子の会」自体は終わりますが、ラウンジから、別のかたちで、情報提供を続けていくことが検討されていますので、ぜひ、多くの方に参加していただきたいと思っています。来年度もどうぞよろしくお願いします。

こうほうぶ 広報部

広報部は、ラウンジ活動を広く地域及び関係者の皆さんに知っていただくために、ちらしやラウンジニュースやホームページを使ってタイムリーな広報を心がけています。情報部と連携してできるだけ多言語での広報を目指していますが、まだまだ十分とはいえません。来年度は、情報広報部としてより充実した活動ができるように取り組んでいきます。

まどぐちぶ 窓口部

今年度は部員一人ひとりが情報を吸収し、相談する体制を作り上げようと努力した一年でした。横浜市大八景キャンパスの中に位置しているの、市大生にラウンジを知ってもらおうと、市大の国際学務課の呼びかけで「ラウンジ説明会」を開きました。留学生、市大生が立ち寄ってくれること、また多くの区民がきてくれる場所であるよう、ラウンジのことを紹介する場作りに力を入れました。15名の窓口部スタッフは連携し、問い合わせ、相談がきたときは協力して対応しました。新たに「横浜市民通訳ボランティア制度」による通訳者派遣業務として、パソコンデータ検索による通訳者マッチングに取り組みしました。またヨークなどでの研修で、他ラウンジの活動や行政の仕組みを学習できたことは私たちの力になりました。日本語教室の学習者が増えてきて、相談に来られる外国人も増えてきました。常に社会情勢の変化や行政の取り組みを把握しておく必要を感じます。今後も市大、各関係者の皆さまと協働し、信頼できるラウンジ、親切な対応を心がけていこうと思います。

日本語スピーチ発表会

3月3日（火）を皮切りに3回にわたって日本語スピーチ発表会がおこなわれ、金沢国際交流ラウンジの日本語教室で学習している外国人に日本語で話をしてもらいました。参加者は3回合計して、外国人 延べ59名（うち発表者は47名）日本人 延べ66名でした。日本語教室ボランティアが総出で準備と当日の係りを担当しました。発表会は2部構成で、第1部が日本語発表会、第2部は参加者全員での茶話会でした。スピーチの主な内容は、ふるさとの思い出、お国の自慢料理、日本に来た頃の失敗談、来日した時の印象などでした。皆さん練習の成果が出て、しっかりとスピーチができました。茶話会では、日本人も外国人も「日本語」で会話を楽しみました。スピーチや茶話会でのしゃべりを通して、お互いの異文化交流が出来ました。



3月3日（火） 場所：いちょうの館
第1回目とあって、ボランティアが結構緊張していたようですが、それでも会場作り、飾りつけ、お茶やお菓子の準備など滞りなくできました。司会者のゆったりとした口調で全体の緊張もほぐされました。また、ボランティアが持ってきた雛人形と壁掛けの前で写真をとっている外国人の方々がほほえましくうつりました。



3月7日（土） 場所：シーガルセンター交流室
いつも学習している教室なので、学習者はさほど緊張もせずにこやかに発表会がすすみました。司会者が各国旗の意味を事前に調べてきてタイミングよく紹介しました。茶話会は発表会と同じ交流室でしたが、そのことも考慮に入れた会場作りのおかげでスムーズに茶話会に入りました。場所が狭いだけにむしろ和気あいあいという雰囲気が良かったです。



3月8日（日） 場所：いちょうの館
発表申込者が30名を超えていてどうなることか一同気をもみましたが、実際に発表したのは21名でした。平和、原爆とか内容が深いテーマが多かった。「形容詞」を取り入れた文を作れた発表者が多く、日本語の上達ぶりがみられた。茶話会でも日本語の会話の輪がひろがり、日本語スピーチ発表会の締めくくりにふさわしい会となりました。



火曜教室の皆さん



土曜教室の皆さん



日曜教室の皆さん